

神奈川



横浜総局
〒231-0015
横浜市中区尾上町
6-87-3
☎ 045-681-0921 (代)
FAX 045-224-6856
yokohama@sankei.co.jp

広告 03-3275-8662
購読申し込み
0120-70-3034
配達・集金
0120-34-4646
紙面・記事
0570-046460

Web
<http://www.sankei.com/region/region.html>

あすのよみ

(7日)
旧5月13日
(大安)



月齢	12.3
日出	4:26
日入	18:55
月出	16:44
月入	3:03
満潮	16:33
干潮	9:50
中潮	21:57 (東京)

キワニス社会公益賞に「ゆりの会」

社会公益のために貢献してきた団体、個人に贈られる第40回キワニス社会公益賞(横浜キワニスクラブ主催)に、視覚と聴覚の障害を併せ持つ「盲ろう者」とその家族らが交流し、支援する団体「神奈川盲ろう者ゆりの会」が選ばれた。15日に横浜市内のホテルで授賞式が行われるのを前に同会の活動を紹介する。

(川上朝栄、写真も)

「光」と「音」が失われた状態でも生活している「盲ろう者」はまだまだ少ない」としたうえで、「日本には盲ろう者に対する専門教育機関もなく、雇用面でも恵まれていないのが現状。互いに支え合って、社会参加の促進を図りたい」と胸の内を明かす。

県内唯一の団体

同会は盲ろう者らが互いに交流を深めたり、手話や点字などのコミュニケーション技術の向上を図ることを目的に、11年5月に設立された県内唯一の盲ろう者団体だ。約30人が活動し、手話の通訳や介助者と盲ろう者が互いにコミュニケーションを図る学習会や、先天性の盲ろう児とふれ合う「盲ろう児と遊ぶ会」などを定期的に開催している。

同会会長で盲ろう者の三田幸司さん(65)「同市中区」は

市内の繁華街・伊勢佐木町の飲食店で調理を担当していた三田さんは、20年ごろに難聴を発症。その数年後には視

盲ろう者 目と耳に重複障害がある障害者。障害の程度に応じて、全盲ろう(全く見えず、聞こえない)▷盲難聴(全く見えず、聞こえにくい)▷弱視ろう(見えにくく、聞こえない)▷弱視難聴(見えにくく、聞こえにくい)という4種類に大別することができる。

盲ろう者の社会参加後押し



ゆりの会では触手話の技術向上を図るための交流会なども開催している—横浜市神奈川区

力までもが急低下し、盲ろう者になった。

情報から孤立し

「自分が障害者になるとは夢にも思わなかった」という三田さんは、生きがいだった仕事も奪われ、「一時は命を絶つことさえ考えた」という。現在は外出支援を行う「ガイドヘルパー」の力を借りながら生活し、同会の活動にも励んでいる。

盲ろう者はテレビを見ることや新聞を読むことも困難なため、情報から孤立しがちで、盲ろう者の意思を伝えるための公的サービスである「通訳・介助者派遣事業」を知らない人もいるという。実際、同事業を積極的に活用している盲ろう者は県内で1割

にも満たず、「引きこもり」のような状況にある盲ろう者も多いとみられている。盲ろう者のコミュニケーション方法としては、手話の形を手で触れて読み取る「触手話」や盲ろう者の指を点字タイプライターのキーに見立てて言葉を表示する「指点字」、耳や補聴器のマイクなどに向かって話す「音声通訳」などがある。

「活動を知って！」

複数の方法を組み合わせることで、コミュニケーション方法は複雑で、県は27年に手話言語条例を施行し、普及推進を図っているが、盲ろう者の意思を伝える通訳や介助者の育成が追いついていないのが現状だ。

三田さんは「(通訳や介助者の育成に向けては)会の活動を多くの人に知ってもらうことが何より重要」としており、「将来的には県内に盲ろう者の総合的な支援拠点を、ぜひ設置してもらいたい」と力を込めている。

同会への問い合わせはファクス(0466・77・58804)もしくはメール(kanagawa_db_yurinokai@yahoo.co.jp)。